

科目名	社会哲学特殊研究	担当者	ササキ タケン 佐々木 健	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>社会哲学という学問分野についての基礎的な考え方を押さえながら、古典的なテキストを読む努力を通じて、私たちが生きる社会とは何か、社会の中の人間存在とは何かという問題を理論的に考察する視点を養うことを目的とする。</p> <p>社会存在としての人間に関する考え方を根本から吟味してみることが肝要である。</p>		
到達目標	<p>社会哲学における基本概念を歴史的な観点からと理論的な観点からと押さえることによって、基礎的な事項を修得し、あわせて標準的な古典的テキストを正確に解説する基礎学力の基盤を形成することを目指す。</p> <p>テキストの読み方として、著作を、著者自身の立場に身を置いて、著者の立場に即して理解する姿勢をもつこと、同時に、そうして理解した内容を、著者の意向に沿いながら、自分以外の他者が読んで理解できるかどうかを反省しながら、平明な言葉で客観的に叙述すること。このような学問的態度の基本を学ぶことが望まれる。</p>		
学修方法	<p>文献（標準的な古典的テキスト）を精読する作業を中心に据える。</p> <p>基本としては、日本語の文献を講読する。必要に応じて、英語の文献を参考してもらうことの可能性も排除しない。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1は前期に、2は後期に、それぞれレポートを提出することが望ましいであろう。</p> <p>しかし、教材の1と2は、テーマ的に、また概念上、理論上、密接に関連しているので、レポートの内容に関しては、前記レポートは教材1だけ、後期のものは教材2のみを論じなければならない、と固定的に考える必要はない。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	課題となっているテーマについて、的確な記述がなされているかどうか、一つの重要なポイントである。文章による議論の展開の仕方が評価のポイントとなる。
	平常評価	40%	同時に、レポートという文章による作品を完成するための努力の過程、基礎作業のプロセスを重視したい。
履修者への要望	<p>基礎的な読解力、問題への学問的関心、概念把握、論理的な記述能力、等を重視する。そしてまた、そのような方面の学力を養ってほしいと願っている。そのためには時間を要するので、じっくり、腰をおちつけて課題と向き合してほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 植村邦彦 教材名： 『市民社会とは何か - 基本概念の系譜 -』 (平凡社新書, 2010年) ISBN:978-4-58-285559-3 940円+税
	社会哲学の中心概念の中で、古代ギリシアに端を発し、近代において中心的な位置と役割および重大な意義を担い、現代においても私たちの社会生活にかかわる基本的な問題を提起しているのが、「市民社会」の概念である。 本教材は、その「市民社会」という「基本概念」の思想史的な発展過程を明らかにし、人間の歴史においてこの概念が担う普遍的な意味を解明したものである。 この講義では、近代および現代における社会の構成原理、思想的基盤として重要な役割を演ずるものとなっている「市民社会」の概念史を、冷静に分析してその意義を探ろうとするものである。
参考図書	ここでは、とくに掲げない。履修者の関心に応じて、適宜、指示する。
履修上のポイント	対象と向き合うにあたって、教材2と取り組むための基礎作業の意味をも持つということ念頭に置くことが肝要である。
レポート課題 1	教材1の第1章から第4章までの議論を読んで、古代から近現代にいたる西ヨーロッパの哲学史・思想史における「市民社会」概念の形成の思想的基礎と歴史的条件とを検討しなさい。 留意点 ：レポート作成者の考え・コメントは添える必要はありません。著者の議論を客観的に要約することを求める。
レポート課題 2	教材1の第5章から第8章までの記述に沿って、現代における、また近現代の日本における「市民社会」をめぐる諸問題について論じなさい。 留意点 ：課題1と同様

基本教材 2	
教材の概要	著者名： アダム・スミス著 (水田洋訳) 教材名： 『道徳感情論』上下 (岩波文庫, 2003年) 上 ISBN:978-4-00-341056-1 1,020円+税 / 下 ISBN:978-4-00-341057-8 1,100円+税
	18世紀イギリスの思想家アダム・スミスの著作で、『諸国民の富』（『国富論』）とならぶ名著。近代「市民社会」を支える精神的原理とは何かを追究するために恰好の教材である。 表題の意味を要約すると、「わたしたちが社会の中で、隣人たちの、そして自分自身の、行為について、人間を人間らしくする、また人間社会を人間にふさわしい社会にする精神的価値に照らして、感情・情操という基盤に立って下す様々な判断（あるいは様々な判断とその基盤となっている感情・情操）に関する理論的考察（と、この考察を踏まえた体系構築のための仮説）」
参考図書	ここでは、とくに掲げない。履修者の関心に応じて、適宜、指示する。
履修上のポイント	この教材と取り組むにあたっては、「古典経済学の創始者」アダム・スミスという既成のイメージをカッコに括って、自由な発想で虚心坦懐にテキストそのものに向き合ってもらいたい。スミスその人の文章を、スミス自身の論理に沿って理解していくことが眼目である。
レポート課題 1	スミス「倫理学」の基本的な枠組みを分析し、道徳的判断と法的判断との論理的構造を明らかにしなさい。 留意点 ：「同感（同感情）」、「当事者—観察者」、「適宜性」、「是認・否認」、「称赞・非難」等々の主要な概念を丹念に分析すること。
レポート課題 2	「自己支配（自己規制）」の徳に関して、①その徳としての特質を明らかにし、②スミス倫理学・哲学における「自己認識」の意義を論じなさい。 留意点 ：①「慈恵」、「深慮」、「正義」の3つの徳との関連と相違を明らかにし、②自己「是認」、自己の行為の判定の問題との関連で、「胸中の偉大な神人」の概念の位置を示すこと。